

特集 = 世界デンタルショー・ハンブルグ(ドイツ)

1974 NO.8

ZOOM UP



武石信治

日本歯科医師会 専務理事

医療を取巻く環境を正しく見つめる時

日本の医療を取り巻く環境は、戦後、とくに最近の20年のあいだに大きく変化してきた。患者の考え方、医療のあり方も変わったし、それを含めた社会全体の思想形態が変化している。その結果、現状ではあちこちにひずみが生じている。しかも、マスコミが、それらのひずみを、一方から見た報道を広く流すため、一般の人たちに誤解を与える例が少なくない。

われわれ医療にたずさわる者は、現在のひずみがどこから生じたかを、きびしく追及する必要がある。

まず、患者の変化を考えよう。むかしの患者は、医療や薬品に関する知識が乏しく、また、自分から知ろうとは考えなかった。すべてを医師にまかせっぱなしだった。しかし、現在の患者は、マスコミの影響か“耳学問”だけは非常に豊富であり、しかも、利己的権利を主張する傾向が強い。

極端な例をあげれば、医師を訪ねて「ビタミン注射をしてくれ」「グロンサンをくれ」と、薬品まで指定する者がいる。また、勤務を終え、帰宅して風呂に入り、夕食をすませてから歯科医を訪れ、「お前は医師なのだから診察する義務がある」といわんばかりに、保険証を差出す者がいる。

つぎに、医師の側である。むかしは医学部を卒業して数年、永い人は7年も無



給助手として大学に残り、研究と技術研修に努力したものだ。しかも、それが当然のこととして受け入れられた。だから、一本立ちする時には、十分な知識と技能を身につけていた。

現在は、大学の研究室に残る者はごく限られ、それも不十分なままアルバイトで働くことを考える。その結果、基礎医学と臨床医学のアンバランス傾向が見られ、開業医のレベル低下が現われようとしている。

これには、医師の技術をいっさい評価の対象としない健康保険制度の問題がからむ。日本歯科医師会、日本医師会が最大の不満とするところの一つである。

そして、これらの問題点の本質を探ろうとせず、表面を見ただけで、自己中心の権利だけを報道するマスコミのあり方にも、大きな疑問を抱かざるを得ない。これらの報道が国民に誤解を与え、両医師会に“悪役”を演じさせているような気がする。マスコミの真に客観的な報道を、強く要望したい。

健康保険制度の重要性は、もとより否定するものではない。しかし、社会主義国家における医療制度と、自由主義社会におけるそれとは、当然、相違があるべきである。日本において、ややもすれば、この点について社会主義的思想だけが正論であるかのように伝えられるのは何故か。国民の1人1人も、そのへんを考えるべき時である。

あたかも、教員について“聖職論争”がおきている。医師についても、これは基本的な問題である。医師は単なる労働者であってよいのだろうか？ また、そうなれるものなのであろうか？ いま、医師自身が、それを考えなければならない時である。

以上の文章は、武石専務理事のお話から、当編集部がまとめたものです。

診療室拝見

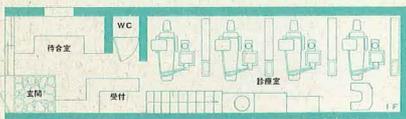
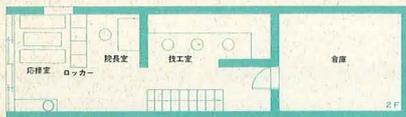
自分のオリジナルを活かす本格派

持山歯科

福岡市天神3丁目3番3号

院長：持山弥之助





西日本で最も大きい筑紫平野を背にした恵まれた位置。それが今日の福岡の繁栄をもたらした理由のひとつ。とにかく活気のあるマチだ。とりわけ中心部の天神町は県庁・市役所・官庁大会社が立ち並ぶ近代的ビル街。福岡の代表的な“表情”ということができる。

持山歯科医院は、天神町の真ん中、車の往来でにぎやかな、通称50メートル道路に面している。開業は昭和34年9月。いらいこの繁華街から離れずに歯科治療を続けている。

持山院長は昭和2年9月、山口県の生まれ。九州歯科大の前身、福岡県立医科歯学専門学校を卒業し、九州大学医学部歯科口腔外科教室へ入局し約10年間のうち、鹿児島大学副島教授のもとで「班状歯発症に関する研究」で医学博士の学位をとった。網元で造り酒屋の長男。診療室を拝見する前に歯科医になった動機をうかがうと「ボク達は戦時中の者で軍人になりたいとも思ったが、オヤジの反対もありましたし……。教練の点数も悪かったからじゃないかなあ。はっきりわからんなあ」—ちよっぴりとぼけた味である。



二階建てのこの医院は、一階が受付、待合室、診療室、二階が院長室、医局室、技工室。開業翌年の35年には東京にいる友人を訪問し、2・3日の間に有名な歯科を10軒も見て回った。「当時九州と東京の距離感が現在とちがいわれわれの仲間もよく東京の一流ではうんぬんといったので……。自分の目で確かめてやれという気があったんです」。翌年からは半年に1回ぐらいの割合で上京。そのころすでに予約制を実施しているところもあったし、人事管理など経営改善に乗り出しているところもまのあたりに見た。いわゆる医療管理のはしりの時代であったと思います。一方研修会にも出来るだけ顔を出したというからみごとな研究心である。

持山医院は医師が院長以下3人、衛生士2人、技工士2人、助手1人、受付1人というスタッフ。「予約制のマス目方式は早くから取り入れていたが6、7年前にオサダのミニエンジンが出来た時にそれぞれ使っていたユニットをこわして部品をとり移動式ユニットを作ったがこれは非常に使いやすかった。残しておきたかったが」といっている。

診療室にはコンユニット移動式が4台。サイドキャビネットが間仕切りを兼用し、それぞれに手洗いがついている。このユニットは、腰をおろしながらフォアハンドシステムの器械を一人で操作できるように考案したというここの独自の治療台。へやの中には飾りらしいものがひとつも見当らない。すっきり、むだのない感じがする。

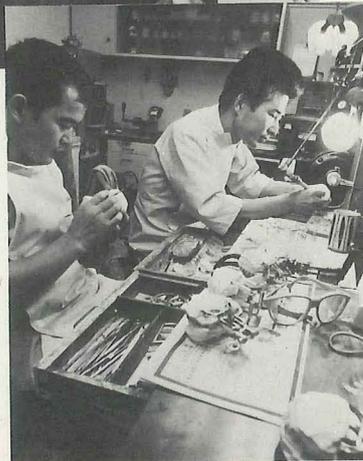
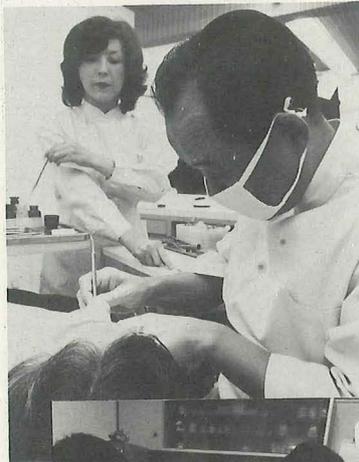
「患者は治療中目に入るのは天井でしょう。だから天井の色に気を使いました」

これも道理である。その天井はマリブルーと濃いブルーの縞が鮮やか。壁はやや青みがかったグレー。2階の技工室との連絡は、手取式の小さなエレベーター。これもアイデアのひとつである。「10年前にはほかの医院から大勢見に来たものでしたが、今はうちよりいい所が多いからだれも来ませんね」とけんそんされるがどうしてどうして合理性を追究する精神はみごとにばかりである。

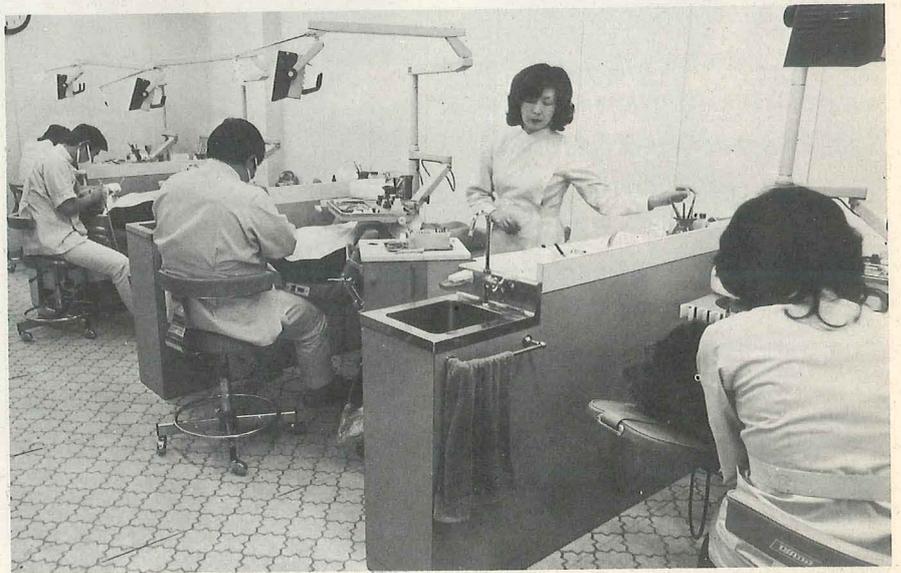
毎月1回ミーティングをし「診療に対する意見を述べ合うが、持山院長は「手取り、足取り式の教え方はしません。自分がやって見せるのが一番。あとは本人の心次第ですからね」とあっさりしている。しかし「ここを出て開業した人はみんないい仕事をしています。だから1年に1回の忘年会に顔をそろえるのが楽しみです」とその口ぶりには自信があふれている。

九州地区連合歯科医師会と福岡県歯科医師会の専務理事を2期勤めているし、会員のお世話や会務で医院にいられるのは週の半分ぐらいという忙しきで本職の勉強も出来ず趣味のイソ釣りは歯科医師会「イソ釣りクラブ」の一員であるが近頃は歯科医師会の用事で忙がしくていけないと嘆いている。そのほかに小唄をするそうだ。37年から5年間みっちり習い、名取りになってやめたというから本格派。「本木流寿娥弥というんです」とてれ臭そうに。初対面の時に、なんとなくさばけた人だという印象があったのもうなずけた。

私の開業を振り返ってみますと現在で



は、あたりまえのことであっても15年前に事務機器展から椅子を買って来て座位診療をはじめたり、ユニットを作ったり、従来の開業にこだわりなく出来たのは、多分私が医者の子でなかったからだと思うんですよ。それにしても卒業後大学の教室で勉強し直すよういつてくれた親父に感謝したいですね——気さくな口調がここでちょっとシンミリと。それもつかの間「うちには美人が多いでしょう。うちに来るとみんな美人になるんですよ」と大きな声を出す。患者も笑い出すなやかな雰囲気に入れ、粹人先生も満足そうな様子だった。



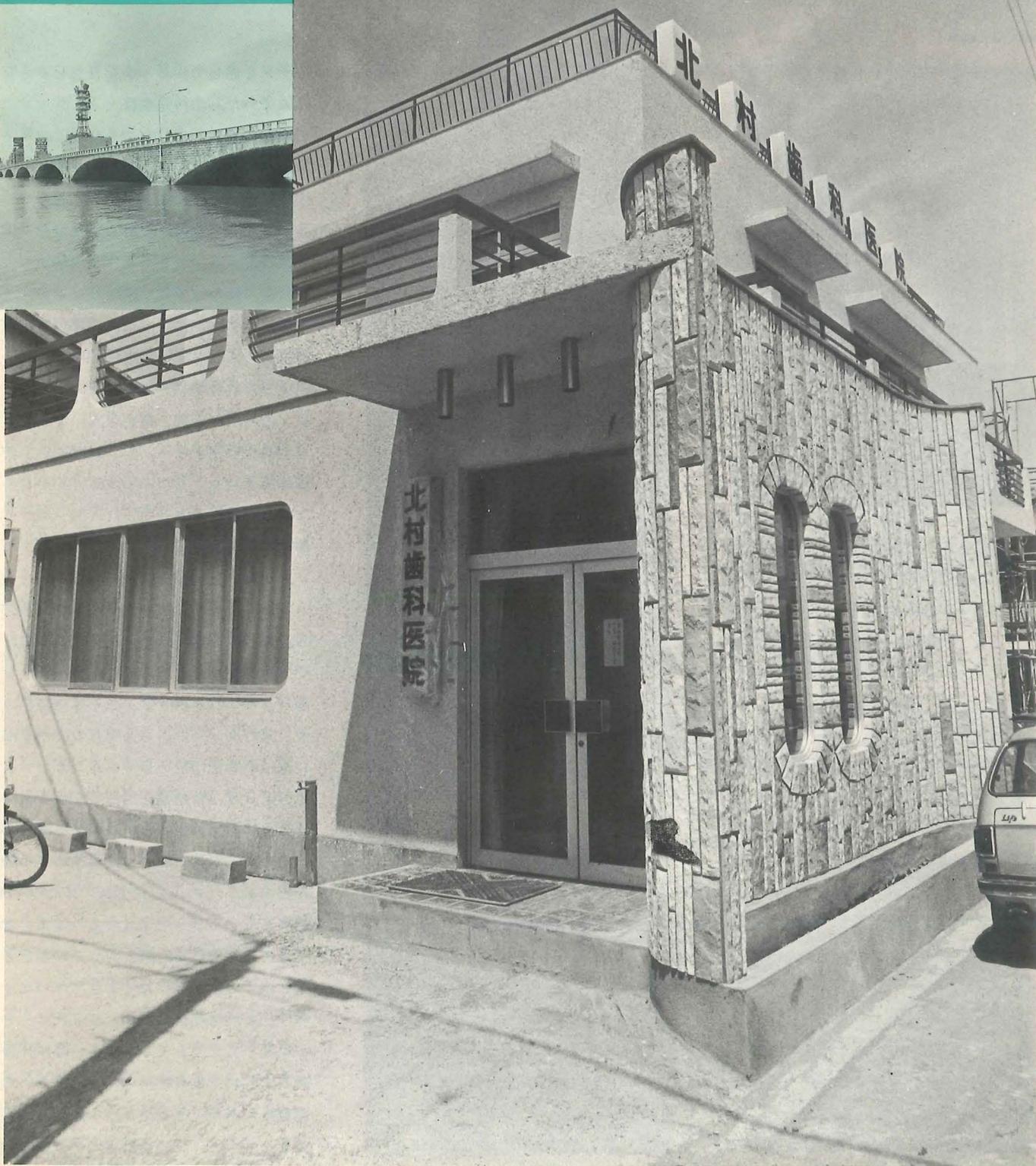
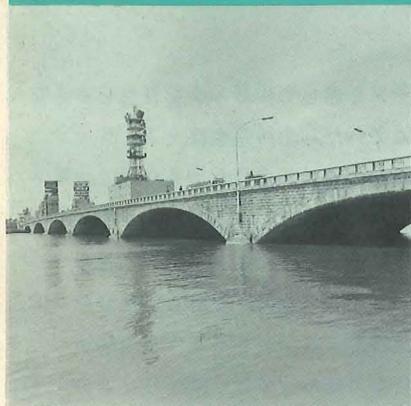
診療室拝見

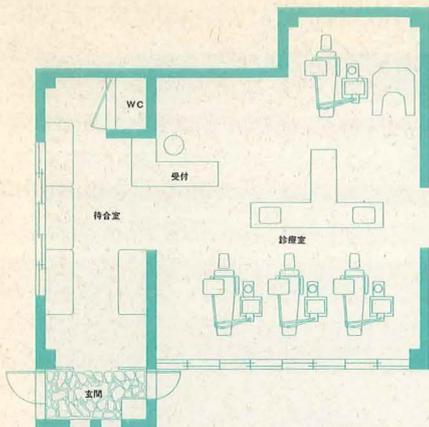
納得いった生活設計をすべてに

北村歯科

新潟市松浜町三軒屋

院長：北村梧朗

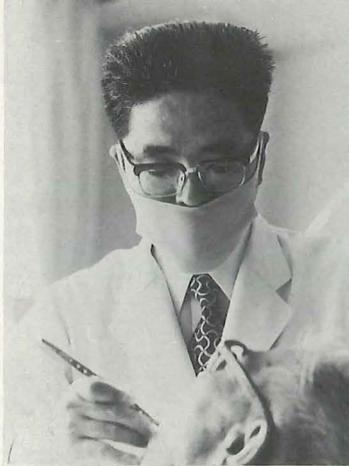




日本最大の川、信濃川の河口で発展を続ける新潟市。人口もすでに40万を超え、裏日本第一の臨海工業都市という地位は揺らぎそうにない。マチ並みも、雪国というイメージからほど遠い明るさを漂わせている。

新潟駅からだと車で十数分、新潟空港からだと5、6分。市の北部にあたるここ松浜町は都心からそう離れていないが、落ち着いたたたずまい。阿賀野川の支流、新井郷川の川べりに二階建ての瀟洒な北村歯科がある。ことし2月に新築したというから、おそらく市内にある120軒の歯科では最新の医院ということになるだろう。

アイボリーホワイトに茶をこまかく散らしたモダンな外壁もさることながら、角地にあることを考慮して玄関の入り口は二つあるのが心憎い。待合室のじゅうたんは黄緑と緑の二色。ページュ色のカ



ーテンを通してやわらかな日ざしがさし込んでいた。北村先生は「ミュンヘンのいなかの感じを出したつもりなんだけど、患者がビヤホールみたいだというんで、夜はビヤホールにしようかなと思っているんです」——大きな目がいたずらっぽく笑っている。気さくそうな人柄がこちらにすぐ伝わってきた。

北村先生は地元新潟市の出身。母校の東京歯科大放射線学教室に10年間残り、開業したのは昭和36年。医院のスタッフは、衛生士が1人、助手3人。その衛生士が夫人の和子さん。同じ教室にいて結ばれたということだ。この陣容で1日平均80人を治療するという。

診療室は約60平方メートル。オサダのコンビ702型など治療台が4台、おかれているが、いかにもゆとりを感じさせる広さ。ここの特色はへやへ入ってすぐ左に受付のカウンターがあることだ。大きな窓のレースのカーテン、ごく薄い緑色の壁。床のロンリウムも大理石のような淡い色。中間色で統一していることが一目でわかった。「緊張感を助長する色は避けたいです。オール白というのは清潔なようですがよくありません。ウチは外科的手術が多いので、ある時間帯にはじっくり治療します。そういう人たちのことをまず考えましてね。出来上がってみるとどうということもないんですが。アッハッハ…」と北村院長。

手洗い（といってもトイレに非ず）や、器具を収納するボックスは全部まとめて診療室の中央にある。「なるべく走り回ることをせず、一カ所で処理出来るよう、

と考えたわけです。既製の手洗いやほかのセットはどういうわけか低いのでしせん腰をかかめる形になるでしょう。あれでは能率も悪いし、体にもよくない。だからウチのは特注です。。ついでお座なりになりがちな消毒をここでは重視する。普通は、洗面器の下あたりにタオルを下げるようなものが多いのだが、金属製のタオル掛けが、ちょうど椅子の背もたれのような感じで見えている。タオルはいつも洗面器の上横に来る感じだ。これも背を曲げずに手をふけるわけ。「注文したメーカーにいいアイデアだとほめられましたよ」—北村院長は、何によらずお座なりに過ごせない性格のようだった。

「地域開発が進んだためマチの様子はがらりと変わりましたが、ここへ来た当時私が昼食をとろうとすると、医者がメシを食うのはけしからんなどといわれてね。残酷な所へ来たもんだとつくづく思いました」—37年秋に、土曜の午後は休診にしたところ、同僚、仲間からさえも、若くせに奉仕の精神が足りないと思われ、忠告やときには非難めいた態度を示された思い出がある。その北村先生もいま45歳の働き盛り。新潟県と市の両歯科医師会学術関係の仕事をしている。「私の場合5年かかりましたが、患者の教育は大切です。いま多勢の患者の治療がスムーズに出来るのも教育のお陰だと思えます」。例えば、治療の時間も自分の都合次第によって来院するような患者さんには「日常の片手間に来るのならもう来なくていい」というのだそうだ。「こちらは命がけでやっているんですからね」。放射



線外科学の草分けである大学で学んだことによって、口腔外科の技術をじっくり身につけることが出来たのだそう。

趣味はと聞くと即座に「クラシック音楽とカメラ」。「相撲はファンというより大鵬部屋の世話役です」と真顔で。なるほど名刺には「財団法人日本相撲協会大鵬部屋門人」と刷り込まれていた。ここ25年は木戸御免、大鵬親方とは家族ぐるみのつき合いとか。世話ずきで、ロマンチスト。北村院長のそんな一面が、話の中でちらりとのぞいて見えるのだった。



私とスマイリー

OITA

HIROSHIMA

FUKUSHIMA

TOKYO

スマイリーについて数々のご意見、ご感想を、全国の先生方よりいただきました。

現在ご使用中の先生方のご意見の中から、スマイリーの特徴ともいうべき点をまと

めてみました。ご一読下さり、先生の診療室のお仲間に入れていただければ幸いです。



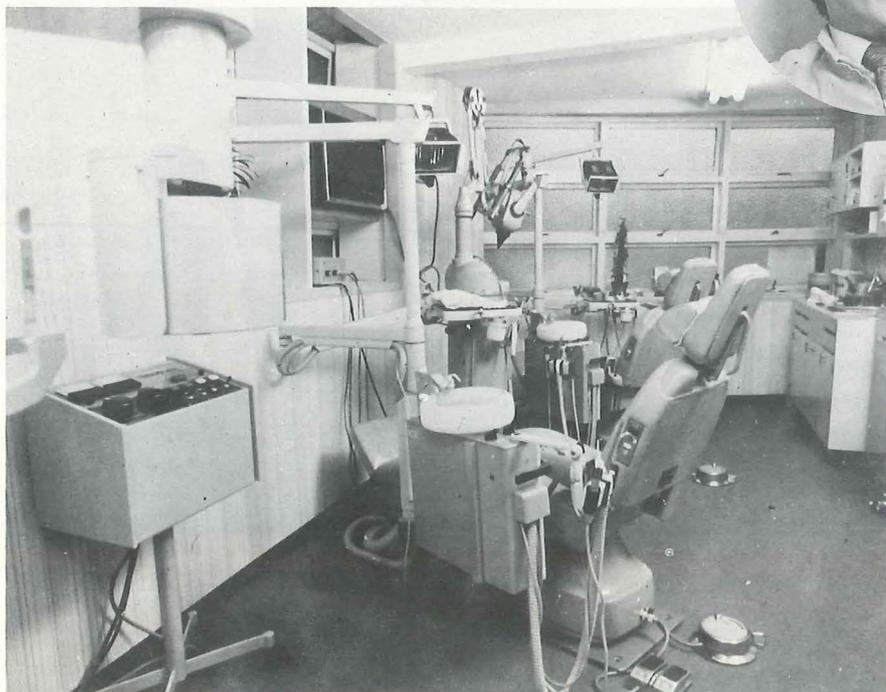
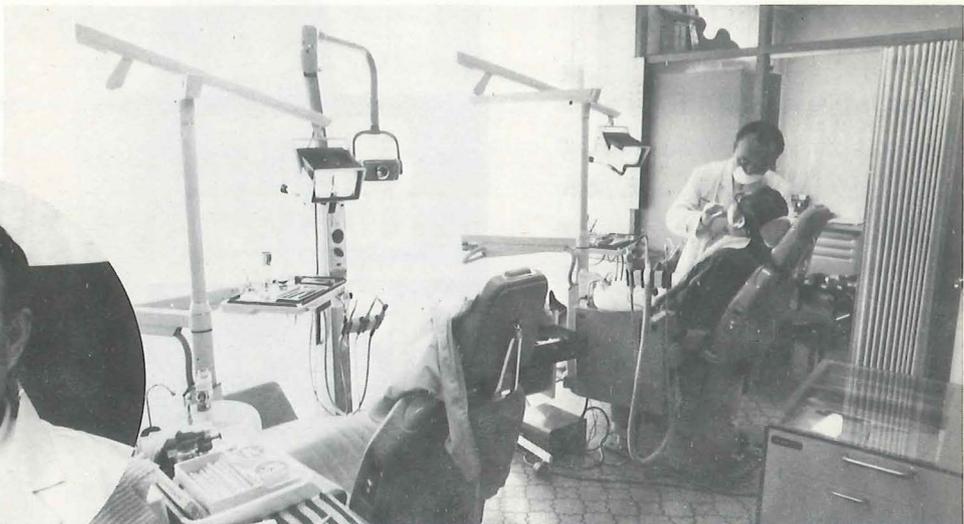
工藤祐暢先生

福島市卸町10-1 福島卸商組合会館2F
日本歯科大学卒 44才

なにしろ狭い診療室ですからねー。
他のユニットじゃあ入らないよ。移動式

のキャビネットが3台、流し台、受付も診療室の中にありますし。技工室はチョット広くとりました。そうそうこの設計はオサダの仙台営業所長さんですよ。現在スマイリーを2台。ほんとうは座位でゆっくり治療したいのですが、とても

こんなに多い患者さんをみるのは不可能。立位のほうが、す早く多くの患者をみるのにはいいんです。その点、このスマイリーは立位、座位でも自由 便利で気に入ってます。



宮下達也先生

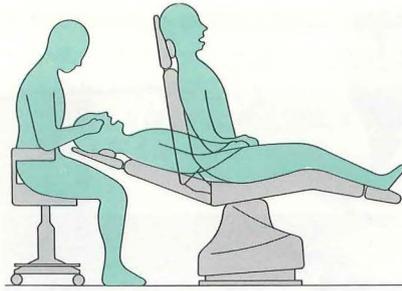
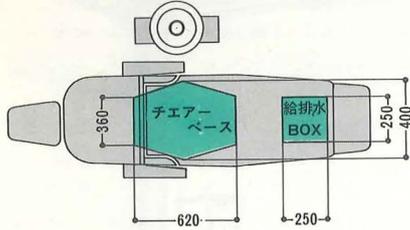
東京都荒川区荒川1-41-9
東京歯科大学卒 38才

ユニットを決めるのにはずい分考えました。スペースや価格、それに治療の生命ともいえるインスルメント等。最初スマイリーを知ったのはダイレクト・メールでした。その後、昨秋のデンタルショーにて実物にふれ、これだ！と決心しました。

前々から私自身、エアートロンなどでオサダの技術は知っていましたし、父はもう何十年も前のオサダのレーズをいまだに使っています。今の診療室はこの3月改造し、4月にユニットを入れ変えたばかりで、まだ使用期間は短いんですが…。満足するユニットだと思っています。私は座位が主ですが、父は立位が多く、親子で両用出来る点でも大いに気に入っています。

スマイリーの床面積

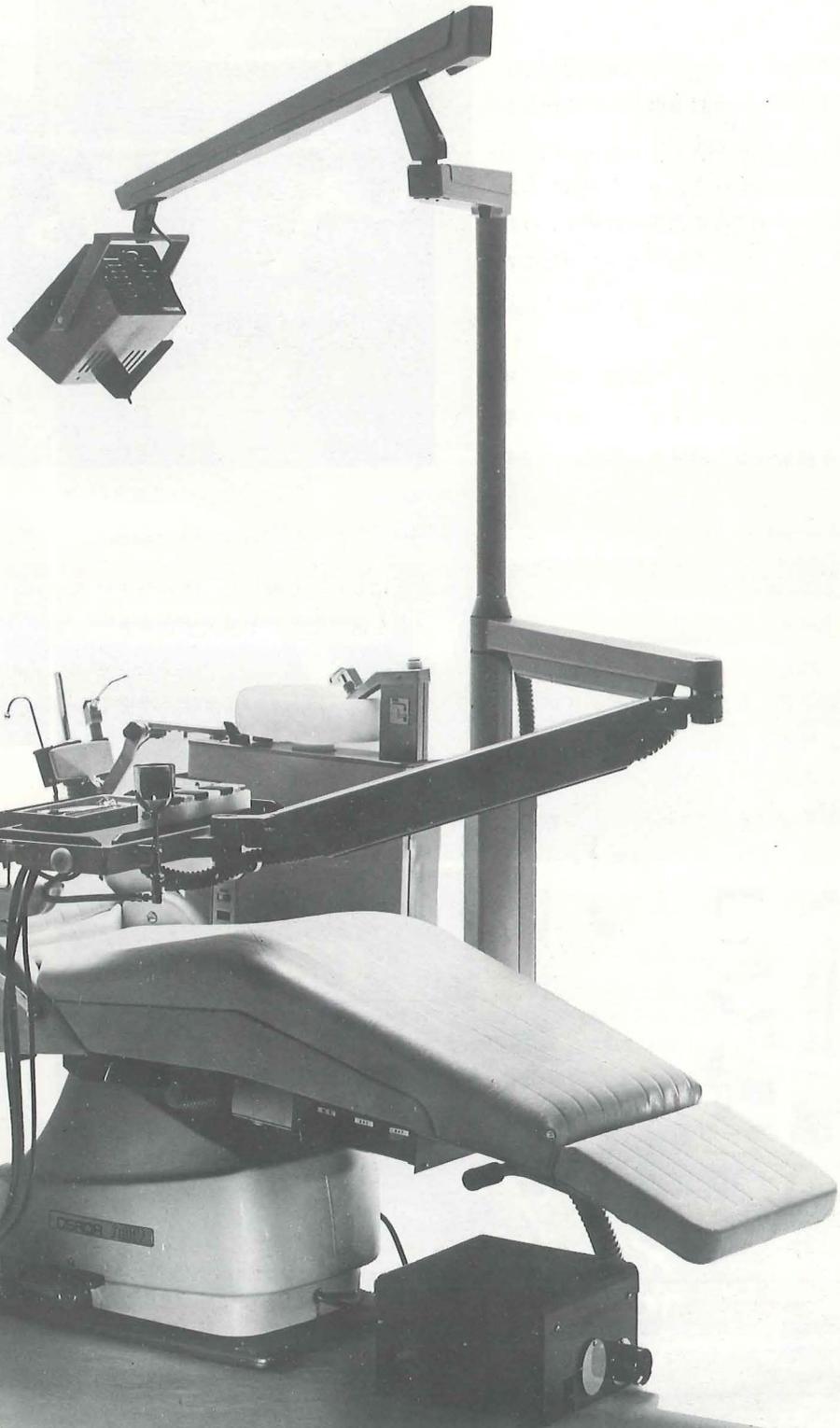
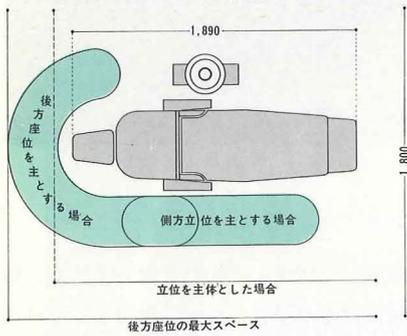
スマイリーはユニット部が、チェアに取り付けられていますので、必要な床面積が少なくてすみます。



スマイリーは立位になれた先生でも座位を基本とされる若い先生でも使えます。チェアはコンターシートタイプですが、背板はほぼ直角まで起き上がり、立位治療にも良く印象採取等に正しい姿勢を得ることができ、同じユニットで水平診療はもちろん可能で、7時から2時までの診療ポジションがとれ、巾広い年齢層の先生方に使っていただけます。

スマイリーに必要なスペース

先生の治療方法により、その必要スペースが異なることが考えられます。後方治療の場合、側方治療の場合、立位治療の場合、座位治療の場合。アシスタントを使用するか等々です。



技術紹介



三好秀樹先生

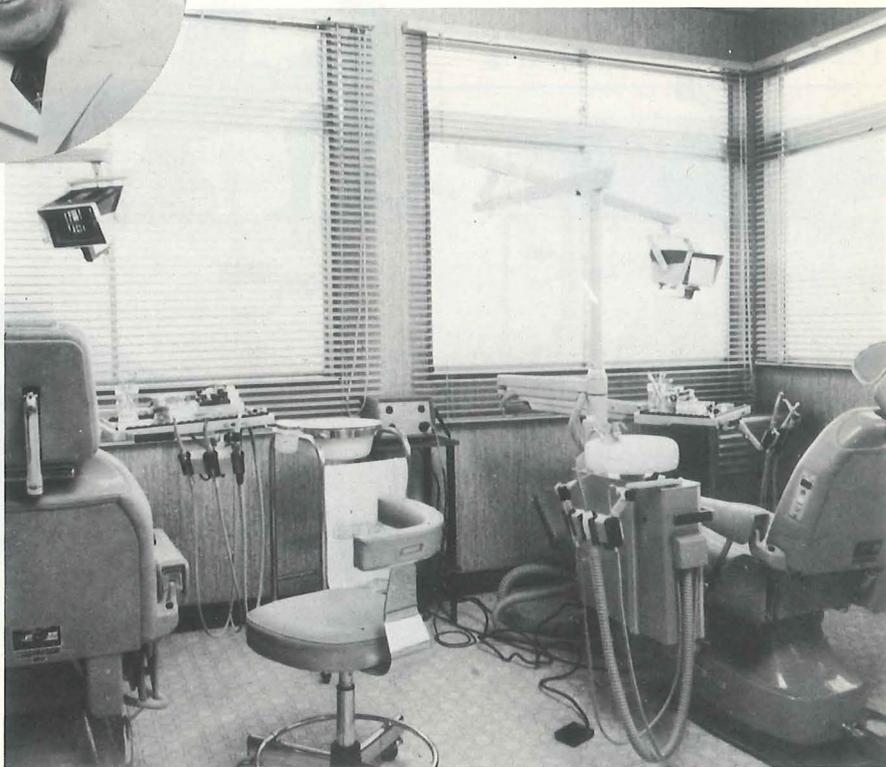
広島県竹原市忠海町4422-7

広島大学歯学部卒 29才

私は2年間広島市で勤務医をしましてネ、明日開院なんです。オサダの機械を使うのは初めてなのですが…。評判もわるくないし、一番気に入ったのはやはりスペースですね。

2間半のスペースに2台入れて、回りも余裕をもたせた診療室にさせるためには、コンパクトでないと、しかも治療に十分な用具を手元で操作出来る機械でなければ…。スマイリーを最初知ったのは広告でした。その後代行店の進めもありまして決心しました。

何しろ急に思い立っての開業、すべてやってみないとわかりませんが、私の診療方針を裏切らない機械だと確信しています。



谷口英昭先生

別府市北浜1-2-25

九州歯科大学卒 32才

(医師2名、衛生士2名、アシスタント1名、技工士2名)

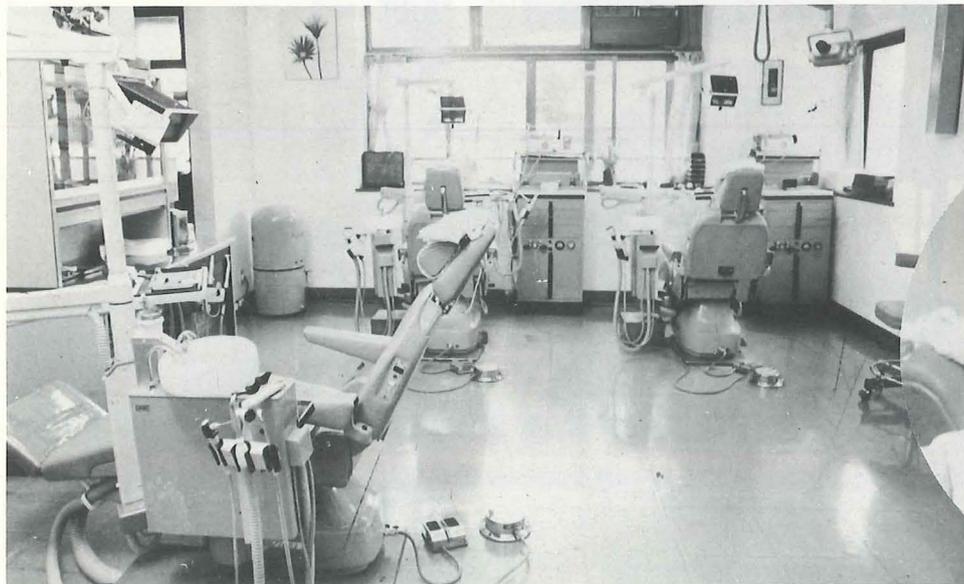
私は、機械によって自分の診療方法や治療体位を変える、という考え方に賛成出来ません。毎日使用する機械ですから、

自分にもっとも適した、使いやすいユニットを選ぶことが1番大切じゃないでしょうか。

スマイリーは、その点立位、座位でも自由に治療できるのが便利です。

排気管とバキュームの関係もいゝんじゃないかと思います。まだ短期日の使用ですが、タービンの切れも良いようです。

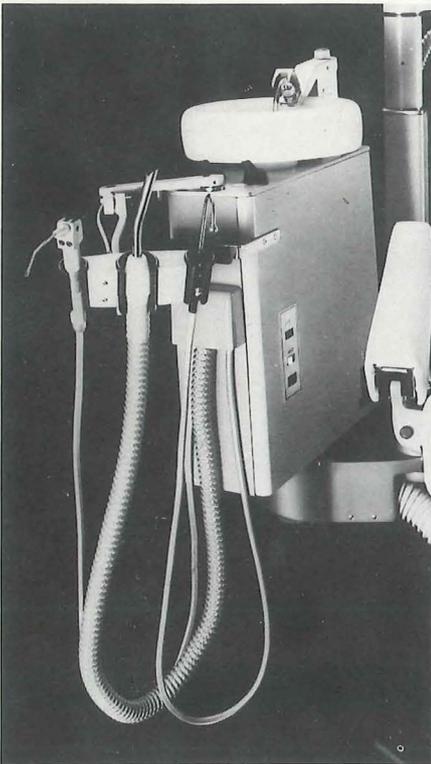
開業医の皆さんそうだと思いますが、機械は故障が少ないこと、故障しても修理が簡単に出来ること、耐久性にすぐれ低価格であること、が理想ではないでしょうか。もちろん美的感覚にも優れていることは、患者さんの心理を考えれば当然です。現在スマイリーを3台使用しています。



スピットン

いつも患者のわきに、ピタリとひかえるスピットン。

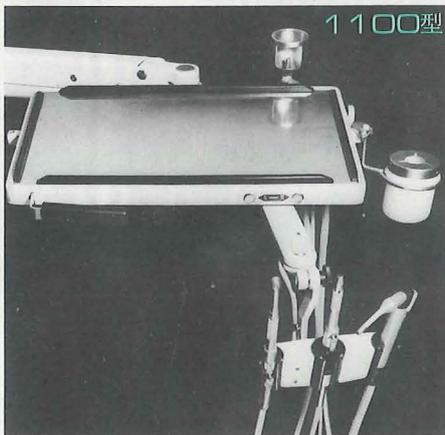
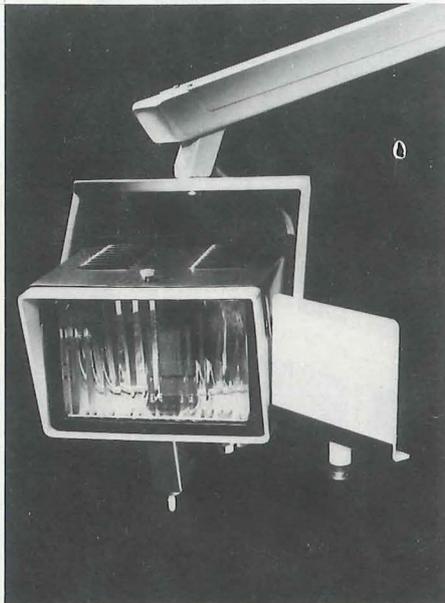
チェアの上下動、左右の動きに連動して動きます。水平280°、回転50°まで可動しますのでアシスタントエリアが十分に取る事が出来ます。そのために、アシスタント用のマルチシリンジSを装備してあります。ワンタッチプッシュボタンによる噴水給水式ですので、コップを用意する事ありませんし、温水器付です。排唾器に加えてエアバキュームも内蔵しています。



ハイルックスA

演色性にすぐれ、自然光に近いハロゲンランプを使用した無影灯。アームは軽く、可動するチェアにいつもついて動きます。

照度16,000ルクスの自然光は患部を明るく照射し、しかもコールドミラーによりほとんど熱を感じません。心強いライトです。



〈オサダ〉の“三銃士”がここに。

オサダが誇る高性能の三銃士がひかえています。

●マイクロエンジン《ビーバーエース》
小型で軽く、高性能の指が1本増えた様なバランスの良さ、毎分 800~15,000回転まで広範囲な変速が無段で可能。フィードバック回路を内蔵していますので、どんな回転でも安定したトルクです。

●エアタービン《ミニトロン又は、オールエアタービン》

〈スマイリー1100型〉には無給油式ベアリングを使用した毎分350,000回転のミニトロンタービンを装備、ベアリングはカートリッジ式ですので、簡単に新品と交換出来ます。

〈スマイリー1300型〉にはエアベアリングを使用した毎分 450,000回転のオールエアタービンが装備されています。どちらも手首の自由を確保し、指向性を排除したフリーグリップを採用、切削力は先生の技術を裏づけします。

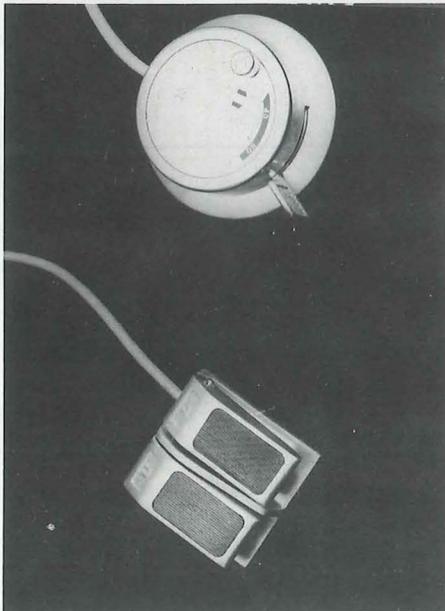
●マルチシリンジN II型

水、スプレー、エア（ホットエアにもなります）が2つのレバーでワンタッチで4通りに使われます。



フットコントローラとフットスイッチ

両手を自由に使って、それでいて、機械のコントロールが十分に出来る様にタービンの回転、マイクロエンジンの回転制御、正逆回転の切替はフットコントローラで出来ます。又、チェアの上昇、下降はフットスイッチで行います。



ワークテーブル

薬ビン、小物器具等をのせても十分な広さ(280×430mm)、アームは最低位630mm上下差420mmでチェアの上昇、下降に同調し、任意の位置に停止出来ます。オサダの三銃士、マイクロエンジン《ビーバーエース》、エアタービン《ミニトロン》又は、《オールエアタービン》、マルチシリンジN IIが2段式インスルメントホルダーに、より支持されていますのでインスルメントの位置設定は自由にセットできます。

又、マイクロエンジンとエアタービンは自動切替になっています。

ガスバーナー、汚物入付。

アシスタント紹介

風間幸子さん(23)

田嶋歯科医院(田嶋繁男院長)＝新潟県
高田市中通町8-23

地元高田の生まれ。45年3月新潟市にある歯友
歯科高等専修学校を卒業。この年8月、田嶋歯科
の開業と同時に勤務した生え抜きの衛生士。こち
らの意地の悪い質問にもたじろぐ様子を見せない
気丈さ。先生の絶大な信頼も当然のことと思われ
た。

田嶋院長は開業前は東京・永田町にあ
る衆議院議員会館の歯科室に勤務してい
た。衛生士の学校に在学中の風間さんは、
田嶋医師の治療方針をこの歯科室での診
療ぶりで見ると、目のあたりにした上で、数ヵ月
後開業する予定だったこの医院で働くこ
とにしたのだという。こんな形で初めて
の勤務先を選べるアシスタントはあまり
いないのではないだろうか。田嶋医師は、
風間さんの卒業後から開業までの間も給
料を払い、自動車の運転免許までとらせ

たのだそう。「確かに私恵まれていますね」
—最初のひとことに、シンの強そうな感
じがちょっぴりうかがわれた。

住まいが近いので15分前に家を出ると、
午前8時30分には医院へ着く。田嶋歯科
には風間さんのほかに助手が4人いる。
いずれも似たような年格好の娘さんたち。
1日60人ぐらいという患者の数からみて
アシスタントの数は多い方だといえるだ
ろう。風間さんも「雑用を分けてこなせ
るので助かります」とここのよさを強調
する。

仕事は楽しい?と聞くと「はい」と答
えたあとでこんな言葉が返ってきた。「き
ちんとした治療をしているので患者さん
に喜んでいただいていると思います」。前に
治療してもらったのにまた悪くなったと
いってくる患者はゼロなのだから。優等
生のような返答ぶりだ。治療の跡始末し
て帰るのはたいてい午後6時10分から15
分。自転車だ。離れて住んでいる両親の

家や親類へ寄ることもあって「住所不定
なんです」。

日曜日は好きな編み物や読書をして過
ごす。ほかに毎週1回生け花とお茶のけ
いこに通う。「花嫁修行のためではありません。
楽しいからやっているだけなんです。
決まっている人はありません」

固いことばかりおっしゃる。それじゃ、
理想的男性像はと水を向ける。むろん未
来のベターハーフ像という意味。「明るい
人、話していて楽しい人、なんでも話せ
る人」とスラスラ並べてから「私は背が
低いので、子供のためにはやはり背の高い
人。外見より性格ですね。わりとわがま
まなので許してくれる人」大分ほぐれて
来たらしい。もう少し好きな男性像を確
かめてみよう。しつこいかな。「好きな映
画俳優ですか。クラーク・ゲブルです
ね。「風と共に去りぬ」のレッド・バトラ
ーの感じですよ」——女優なら、香山美子
とか浜木綿子。イキなひとがいいのだと
女性の方は「国産」をあげた。

再び仕事の話に戻って、いやな患者は。
「口の中が汚い人に説明をしますでしょ。
わかってもらったと思っていると、次の
ときちっともきれいになっていないので
す。こんな時は自己満足をしていた自分
にがっかりします。でもこの仕事を選ん
だことには後悔していません。」とても落
ち着いて女教師のような感じだ。田嶋先
生は「彼女のお父さんは小学校の教頭な
んです」と教えてくださる。やっぱり、と
彼女の雰囲気納めできるような気がし
た。



〔田嶋院長の採点〕

積極的に仕事をしてくれるので感謝しています。
全くといっていいほどミスはありません。気が強
すぎる欠点がありますが、それが長所かもしれま
せん。ほかの助手の教育も彼女に安心してまかせ
られますよ。



OSADA

スマイリー



全国の先生方、暖いご支援ありがとうございます。

技術のオサダ、先生がたのお心と、患者さんのお気持ちを何よりだいじにする〈オサダ〉。

〈オサダ〉の個性と良心が、作りあげたユニークな作品です。3台が4台になります。従来の機械は、1間(180cm)に1台が常識でした。それだけのスペースがないと、せっかくの先生がたのお力を、フルに発揮していただくことができなかったのです。SMILY(スマイリー)は、3間半に4台おけます。それでいて、どの位置からも、どんな姿勢でも、

じゅうぶん腕をふるっていただけるのです。

そうじも簡単。奥様やアシスタントの方々も、大助かりでしょう。価格も手ごろ。

これから……という若い先生がたにも、きつと手を出していただける値段です。「1台ふやそうか……」とお考えの先生にもびったり。

常に、先生がたのお気持ちを汲んで研究・開発をする〈オサダ〉にご期待ください。